



Title	まちおこしの経緯と新たな取組みについて
Author(s)	坂田, 庄巳; 松本, 真治; 山内, 正明 他
Description	第一部: 第6回観光創造フォーラムの記録. 講演録. 基調報告3 モデレーター: 岡本健
Relation	次世代まちおこしとツーリズム : 鷺宮町・幸手市に見る商店街振興の未来 = Community Development and Tourism for the Next Generation
Citation	CATS 叢書, 4, 30-55
Issue Date	2010-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/42919
Rights	© 2010 坂田庄巳、松本真治、山内正明、岡本健
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS04_006.pdf



基調報告3「まちおこしの経緯と新たな取組みについて」

坂田庄巳（鷺宮町商工会 経営指導員）
松本真治（鷺宮町商工会 経営指導員）
山内正明（幸手市商工会 業務推進チーム）

モデレーター：

岡本健(北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院)

○岡本

皆さんはじめまして。北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻博士後期課程に所属しております、岡本健と申します。本日は、いつも大変お世話になっている鷺宮町で開催されるフォーラムの中でモデレーターを務めさせていただくということで、感謝の気持ちでいっぱいです。私の大学院生活は鷺宮町と共に歩んでいるといっても過言では無いほどでして、この会場にいらっしゃっている方々のほとんどに様々な場面でお世話になっております。この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。本当にいつも有難うございます。

早速、商工会の皆様にお話をいただきしたいと思います。鷺宮町商工会の坂田庄巳さん、同じく鷺宮町商工会の松本真治さん、幸手市商工会の山内正明さんのお三方にそれぞれの取組みについてお話をいただきます。皆様、本日はご多忙のところお話をいただけるということで、有難うございます。宜しく願いいたします。

お三方は現在大変なご活躍中ではありますが、時間軸に沿って、過去、現在、未来、ということで話を進めてまいりたいと思います。まず、過去ですが、鷺宮町の町おこしのきっかけの段階から非常に精力的に活動されている坂田さんからご発表いただきたいと思います。坂田さん、よろしく願いいたします。

○坂田

はい。座ったままで失礼いたします。鷺宮町商工会の坂田です。よろしく願いいたします。

私は、次世代型観光というものに対抗しまして、次世代型のプレゼンテーションというのを、昨日考えてみました。どんなものかということ、私の言葉ひとつひとつにちょっと感情をつけてみました。気持ちを表現した表情の写真を言葉と一緒にお届けします。ちょっと恥ずかしいんですけど、言葉だけよりも言いたいことが伝わるといって是非見ていただきたいと思います。

その前に、大変残念なお知らせがありまして、私が発表する内容が殆ど山村先生と被

っていたという、非常に残念なお話なんですけど（笑）…。

○岡本

いえいえ、研究者の視点と、現場で実際にご活躍されている坂田さんの視点とは違う部分も多いにありますので、全く問題ありません。坂田さんの方からいろいろと自由に語っていただければと思います。むしろそのあたりの多面的な見方が皆さんに提示できれば、非常に面白いと思います。次世代型プレゼンテーションも楽しみです。

○坂田

ということですので、堅いプレゼンというよりも、ちょっと裏話的なものを交えながらやっていきたいと思います。まず、今日、「萌フェス」(図-1)を開催させてもらって、一番感じたことがあります。そのことからお話させていただこうと思います。



図-1 「萌フェス」の様子（撮影：岡本健）

当初から、幸手の山内さんは、非常に熱心に鷺宮と一緒に動こうとしてくださっていました。自腹を切ってもやりたい、とそう言ってくれていました。そういった方を含め、熱い想いを持った方々の参加型イベントをずっと目指していたのが、正に今日、形になったのかなと思いました。本日の「萌フェス」では、痛車グランプリの部分、それから地域の商店の方の物販の部分、外部の方の物販の部分などがありました。痛車の部分に関しては、殆ど我々はタッチしていません。痛車乗りの皆さんがボランティアチームを作って自分達で運営をしていただきました。様々な主体が集まって、それぞれに考え、そして一つの祭りを盛り上げているわけです。

まちおこしの当初から御協力いただいているボランティアの皆さんに、「物販の方お願いしますね。」と言うだけで、見事に仕切ってください、どんどん手際よくやっていただきました。我々は、本当に準備しただけという、参加型の良い形というのが、今日、

非常に見えたなと思います。

そして、また余計な話ばかりになってしまうんですけども、面白い話を聞きました。今日、出店の中でYMG1さんという、痛車のカッティングシートを売っている業者の方が出ていたんですけど(図-2)、その方とお話していたら、次のようにおっしゃったんです。「いや、先ほどですね、多分、地元の方だと思うんですが、結構年配の方が来まして、『シールここで売っているのか。ちょっと欲しかったんだよ。悪いけど、買うから貼ってくんない。』ということで、4つシールをお買い上げいただいて、4面に貼って帰られたんですよ。」って言うんですよ。凄い話だなと思って、本当かなと思っていたんですが、私、先程歩いていたらその車を見かけて、つい運転手の顔を見たんですけど、正に65から70歳くらいのご年配の方でした。赤い車でしたね。皆さん、見かけたら優しく声をかけてあげてください(笑)。こんな良い話もありました。



図-2 YMG1の痛車(撮影:岡本健)

そして、ちょっとこれも裏話的なんですけど、今日やらせていただきました、萌え度セクション、このお弁当の掛け紙を描いていただきました、西又葵さんというイラストレーターの方がいらっしゃるのですが(図-3)、つい先日、こちらの3人で御挨拶に行ってきました。そこで、向こうの会社の方とお話をしていたんですけども、「最近、鷺宮、それから幸手、そして、羽後町とかですね、そういった萌え系のイラストを使うところが非常に増えてきたり、萌えおこしとかいう言葉が使われたりしますけども、そういう話が増えていませんか。」と尋ねたところ、非常に増えているとお答えになりました。そういった依頼が多数来ているそうです。その1ヶ月か2ヶ月ぐらい前でしょうかね。やはり3人で角川書店の担当の方、広報の方とかと、ちょっと一杯飲ませていただいたんですけども、同じようなことをおっしゃっておられました。あちこちから、アニ

メやキャラクターを使えないのかというお話が来ていると。ただ、どこも全く的外れなんだそうです。単に、キャラクターをつければ良いんだらうと。その程度の認識しかないということで、全く連携する気にはなれないというお話をされていました。その中で、西又さんの方に話が戻りますけど、「鷺宮・幸手さんの方からお話をいただいたのは非常にありがたいことだ、こちらとしてもプラスだ」「今まで鷺宮、幸手がやってきたことに、私どもが加えていただけることが非常にありがたい」と、そこまで言っていました。すでに、鷺宮・幸手の萌おこしというのが、ある種の地域のブランドとして確立されてきているのではないかなということで、非常に気持ち良くさせられて帰ってきました。西又さんは、会うと非常に綺麗な女性でびっくりしました。ちょっと緊張してしまいました（笑）。という裏話ですね。



図-3 西又葵さんのかけ紙イラスト（撮影：岡本健）

○岡本

なるほど、地域振興はもちろんととても重要ですが、キャラクターやアニメに対して、その著作権所有者に対して、敬意が無いといけないということですね。ただ、キャラクターをつけて土産品を売ればいーだろう、作品を使って金儲けできればいーだろうという安易な気持ちだと、アニメのイメージやキャラクターのイメージを壊してしまったりすることもあるわけですね。ファンの気持ちも裏切ってしまうかねないですね。そうす

ると、逆に地域のイメージが悪くなってしまう危険もありますよね。

○坂田

そうです。やはりアニメやキャラクターを使わせていただいている、という感覚はとても大切だと常々思っています。なんとか著作権所有者にも良い効果をもたらせるようにしたいと、そこは重要視していつも取り組んでいます。

では、そろそろ、本題の方へまいります。元々「らき☆すた」のまちおこしに取り組みきっかけですが、2007年7月の、月刊ニュータイプの付録で、鷺宮が作品の聖地ですよということが紹介されたことから始まりました。「らき☆すた」は、鷺宮、幸手が舞台ですよというのがここで認知され、人が徐々に集まってきた。この時点では殆ど、こういったアニメの熱心なファンの方以外は、鷺宮がアニメの聖地だということはあまり知らなかったのではないかと思います。

そして一般の人にも大きく広まったのが、2007年の7月Yahoo!のニュースに載りました「オタクが殺到、地元治安の問題が」という記事ですね。当初、オタクが殺到して治安が心配だという報道を受けて、ネット上はどうなったのかといいますと、非常に悪いイメージになりました。2ちゃんねるの方でも大分盛り上がりおりました。そして、他の報道機関、テレビなどでも非常にマイナスなイメージで報道をしていました。

○岡本

報道ではそのように言われていたということですが、実際にそういった不安を住民が口にするという動きがあったのでしょうか？

○坂田

実際は、商店街は無関心でした。より正確に言うと、知らなかったですね。わからない、全く知らない方が多かったです。そういう状況でした。よく、まちおこしの調査ということで、私どもにインタビューをしに来てくださる方にも「周辺の住民の方が不安があったのでは？」なんて聞かれるんですけども、そういうことは私の知る限りではありませんでした。

○岡本

そうすると、治安が悪くなって困る、というような意見が商店街の方から出ていたというよりも、ホームページや報道がそのような形の情報発信をしていたということでしょうか。

○坂田

そうですね。商店街は、若い人がたくさん来るようになったけど、どうしてだろう、ぐらいのことだったと思います。私も、当初、本当に「らき☆すた」を全く知りませんでした。正直、なんでこのアニメに大西茶屋(図-4)が使われているのかなっていう、それぐらいの反応だったですね。悪いとか良いとか、そういうことよりも、なんで？という。

ということで、なるべく私は来ている人に声をかけようと思いました。色んな人が来

るようになりましてので、じゃあそこで、ちょっとどういうことになっているのか、神社に来られている方にどんどん聞いてみよう。私、わかんないの。ちょっと恐々ですが、「あの一、どういうアニメなんですか？いつ放送しているんですか？どこから来たんですか？」ということで聞かせていただきました。なるべく声をかけました。すると、「そのアニメはですね、萌える、萌え、萌えるんですよ。」と、蘊蓄を詳しく色々聞かせていただきました（笑）。全国からファンが来ているんですよということで、本当にびっくりしました。

鷺宮町は観光地ではないと思っておりましてので、県外から来るだけでも、非常に驚きなんです。わざわざそんな所から来てくれるんですかと。こんな何もない町にわざわざ来てくれるというのが、非常にありがたくて、何か御土産物が作れないかと考えました。どこの観光地に行っても、どこそこに行ってきたとか、お饅頭があったりする。何か作れないかなということで、松本と悩みました。



図-4 鷺宮神社と大西茶屋（撮影：岡本健）

○坂田

そこで、ダメ元で角川書店さんに電話させていただきました。「実は、こんな状態になっているんですけど、何か出来ないですかね。」ということで。お話をさせていただいたところ、版權担当の方から、「企画書を出してみてください」というお話をいただきました。その頃まだ角川書店さんもそういった地域のまちおこし的なものっていうのは、全く関わったことがなかったそうです。だめかな、と思っていたところで、こういった嬉しい反応をいただきましたので、私と松本2人で、「こっちのやる気を見せよう！」ということで、1週間で20くらいの企画を作りました。今見ると、アニメのことを全然分かっていなかったなと思う企画なんです…。そういったものを出させていただきました

ましたら、是非一度、本社に来ませんかというお誘いを受けまして、お邪魔しました。

そこから、最初のイベントについては角川さんの方からグッズについて色々アドバイスを受けました。絵馬ストラップの台紙の初期版には、みゆきさん（らき☆すたの登場人物）の絵が入っていたと思うんですけど、角川書店さんの方からそういったアドバイスをいただいて絵も提供していただきました。その後も様々な場面で御協力いただきました。スクラッチをやったりストラップの販売をしたり、ポストカード、らっきー☆SALE、売り出しもやっております。そして特別住民票交付式、飲食店スタンプラリー、先ほども出ました感謝祭、「らき☆すた神輿」ということで、角川書店さんに多大な協力をいただきました（図-5、図-6）。



図-5 ポストカード、携帯ストラップ、スタンプラリー台紙、箸袋（撮影：向原緑）



図-6 土師祭の「らき☆すた」神輿（提供：鷺宮町商工会）

実は、角川書店さんとちょっと飲んだ時なんですけども、角川書店さん側でも内部の調整に非常に苦労されたという話をうかがいました。やはり大きな組織ですので、何で鷺宮だけ特別なのっていう意見も色んな業者から出て来ていたのだと思います。そして、製作委員会ということであれば1社だけではありませんので、その中の調整が非常に苦労されたのだと思います。良い思い出だとおっしゃられているくらいですので、鷺宮とか幸手で私どもが苦労している以上に、角川書店さんの方としても相当苦労されているんだなと感じております。

そして、今、2年が経とうとしていますが、今なお、本当に多くの方が鷺宮に来てくれています。本当に皆様有難うございます。我々の取り組み姿勢なんですけれども、ファンの方に対する、鷺宮に来てくれて本当にありがとうという気持ち。これを忘れないようにしています。

そして、商工会として会員事業主さんの利益が平等になるためにはどうすれば良いんだろうかということで、ファンの方には大変迷惑な売り方かとも思いますが、ストラップにしても1店舗2つのみの販売にさせていただきました。その理由は、らき☆すたファンの方々になるべく鷺宮町を巡ってもらいたい。商店の方々には利益を分かち合ってもらいたい。そして、少しでも「らき☆すた」の事業に関わってもらいたいという気持ちから、こういう販売の方法をしています。ストラップについても、ストラップの絵馬自体は春日部の飯島桐箆さんが作ってくれていますけれども、あえて台紙は鷺宮町の印刷会社さんをお願いしています。そして、それを包装するのは、鷺宮の内職のところということで、非常にこっちとしては手間がかかりますが、それでも少しでも鷺宮町の業者にたくさん関わってもらいたいということで、そういう形でしております。

○岡本

そういう売り方によって、ファンと商店主さんが直接出会えますよね。私もストラップを買わせていただいた時に、商店主さんとじっくりお話できて、「次にまた来たいなあ」と思えました。全てのストラップが同じところで売っていると、そこしか行きませんが、いろいろと町歩きをすることで、ファンは鷺宮町を深く知ることができますし、逆に、町の人たちもファンの方々に出会う機会が増えますね。

○坂田

そして、著作権元の角川書店さんに対しても、いつも色々、実は企画書を送っています。本部と連携することによってDVDなどの作品の認知度や購買のアップに繋げることが出来ないか、いつも著作権を利用させていただいてありがとうございます、という気持ちを持っております。大事な作品ですので、角川書店さんとすれば、それが御飯のタネなわけです。それを使わせていただいているという部分の感謝っていうのは、本当にしておりますし、逆に何か角川書店さんのほうにもメリットがあるような形で実施していきたいと思っています。

よく、鷺宮町にいろんな視察の方々がいらっしゃいますけども、勘違いしている方が

いらっしゃるんです。アニメの絵は、簡単に使えるもんだという認識ですね。そういう著作権とかの知識は、我々も元々なかったんですけども、その辺をもっとわかってあげないと、おそらく他のアニメの著作権者の方も安心して、自治体に許可を出したり、ということが出来ないんじゃないかなと思います。

こうした結果、皆が気持ちの良い関係を築くことが出来た。そして、それがファンにとっても居心地の良い場所になっているのだと思います。そして、私の勝手な分析ですが、元々、mixi とかそういったもので、ネット上でのコミュニティというのが自然発生的に出来ていて、それがリアルでコミュニケーションをはかる場所というのが、オフ会なんですね。それだと、わざわざ日にちを設定したりしなくちゃいけないわけです。でも、鷺宮町の場合は、それが日にちを設定しなくても、来ればコミュニティの場所に自動的にになってしまう。ここが特徴的ではないかなと思います。

○岡本

そうですね。私も、いつ来させていただいても、毎回会う方がいらっしゃるんです。ドラえもんに出てくる空き地みたいだなと思っています。行ったら誰か知っている人がいるという。約束はしていないのだけれども、行ったら会えるという。

坂田さん、先程コミュニケーションというお話がでしたが、ファンの方がどういふふうに関元の方とコミュニケーションされているのか、何かエピソードはありますか。

○坂田

これは痛車に乗っている方に聞いたお話なのですが、神社周辺に住んでいる方にこの間声をかけられたそうなんです。「車の絵が変わったよね」って言われたんだそうです。絵の違いがわかるんだなと思って、感心したんですけど（笑）。

○岡本

地元の方がファンの方に。

○坂田

変わったよね、っていうことで、話があったという。

○岡本

まったく無関心だったり、一目見て「ああ、アニメ目的の人が来てる」ぐらいの認識しかもっていなかったりだと、痛車の絵が変わっているかどうかなんて、気にしませんもんね。痛車の方が地元の方とよくコミュニケーションを取られていることがわかりますね。

○坂田

あとは、痛車乗りの方が、地元のちびっこと遊んでいる姿を見かけました。

○岡本

それは微笑ましいですね。

○坂田

微笑ましいですね。

○岡本

なんかニュースキャスターのコメントみたいになりました（笑）。口を挟んでしまってすみませんでした。続きをお願いいたします。

○坂田

次は、飲食店のスタンプラリーですね（図-7）。山村先生からも御紹介ありましたけど、ここは本当に大きかったなと思います。

これを発案したのは実は松本でありまして、松本がぼけっとしていながらも、大西茶屋だけでなく、他の店にも何かこう、足を運んでももらえないだろうかということで考えたことです。

そして松本、全部で5回くらい、「らき☆すた」を全編見たそうです。全て見て食べ物のシーンを全てチェックしたそうです。第何話の何分何秒に、何を食べるシーンがあると。そうやって、食べ物のシーンを全部書き出しまして、そしてそれを元に「らき☆すたメニュー」を反映出来る飲食店を募集して集まったということです。ただやってもつまらないから、せっかくだからアニメにちなんだ形の名前にしました。ただ、オリジナルメニューをわざわざ作るっていうのはどうしてもそれぞれの飲食店さんの手間になってしまいますし、負担になるので、それは避けようということにしました。

実施の結果、642名の達成ですね。一回りするのに約9,300から9,400円くらいでしょうか。かなり高い遊びになってしまうんですけども、それが半年間で642名。これには本当、発案者である松本も非常に驚いていました。

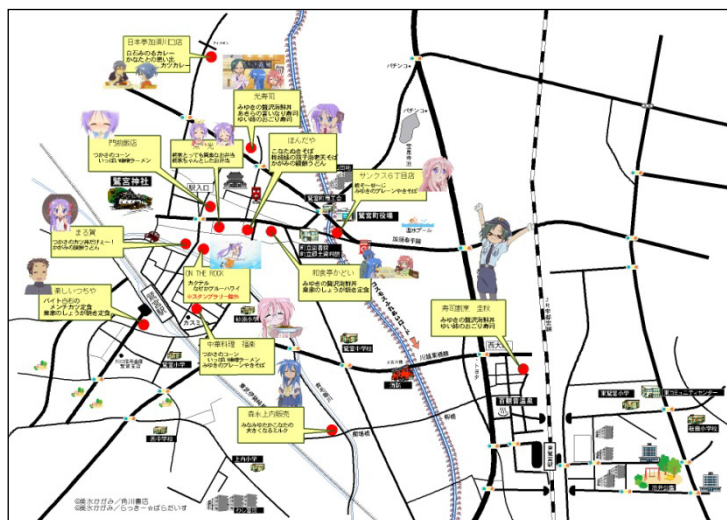


図-7 飲食店スタンプラリーの地図（提供：鷺宮町商工会）

想定外の効果ということで、私のちょっと勝手な分析の部分ではあるんですけども、ファンの方——10代から30代の方——というのは、殆どがコンビニだとか、ファミ

レスだとかといったところで食事をしたり、買物をしたりしていると思うんですね。それが悪いとは言いませんけれども。それがスタンプラリーをやることによって、積極的に鷺宮町内の店に足を運ばなくてはいけなくなると。そういう所では、昔の良き商売のあり方、義理人情というのがついてくるわけです。そこで商店とファンの人達の交流が生まれたということで、この間も、門前飯店さんの白衣を着た若いファンの人がありました。ファンが店のファンになって、手伝いをしていくんだそうです。門前さんに泊まると皿洗いを手伝わなくちゃいけないというルールがあるようです。店を手伝うファン、店を手伝って、宿泊していく方、と、今までではありえない交流というのが生まれております。店の外観は、ファン向けの飾り付けがすごいです。店側も本気だなという。お店の取り組みも凄いなど。ということで、ここが結論だと思います。訪れる側、受け入れる側の、双方の気持ちの上のみ成り立つと。これは全ての観光関連事業に言えることではないのかなと思います。それは今の日本というものが無くしてしまった、大切な気持ちという部分ではないのかなということです。

○岡本

ありがとうございました。訪れる側、受け入れる側、双方の気持ちがあまくかみ合った時に、居心地の良い場所が生まれるのかなと思いました。個人商店の良さ、という話が出ましたが、私自身のことを考えても、鷺宮町に来るようになってから、個人商店の良さが非常によく分かって、良く足を運ばせていただくようになりました。多分、ファンの方もそういった良さをすごく感じていて、居心地が良くていろいろな商店に足を運ばれているんじゃないかなと思います。ストラップ販売やスタンプラリーイベントなどがそういったきっかけとなって、コミュニケーションが促進された面もありましたね。加えて、アニメやキャラクターを使わせてもらっているという気持ちを持って、そういう形でまちおこしをしていくことも重要であるということでした。坂田さん、貴重なお話をいただきまして、ありがとうございました。

では、坂田さんから、これまでの経緯のご発表をいただきましたので、次は、今現在の様子ということで、幸手に「美水かがみギャラリー」がついこの間オープンしました。山内さんがその企画から実施まで様々な場面で非常にご尽力されたと聞いております。その辺りの苦労話などを含めて、ご発表いただければと思います。山内さん、よろしく願いいたします。山内さんは動画で発表してくださるんですよね？

○山内

そうなんです。昨日ですね、別の用事がいっぱいあったもので、何も準備が出来てなくて…DVDに焼こうと思ったら、DVDのディスクが壊れちゃったということで。

○岡本

それは痛いですね。

○山内

今日は「萌えフェス」のテーマが「あなたが痛いから」ということで、痛いづくしで

いきます。動画は流れて行っちゃうので、それに合わせて一生懸命喋りますから、途中、大分早くなるところがあると思います（笑）。

○岡本

DVD特典で付いてくるオーディオコメンタリーみたいな感じですね。それをリアルタイムでやってしまうという。

○山内

はい。途中で諦める時もありますから、よろしくお願いします。それでは、始めます。幸手市の見所ということで、幸手市といえば桜で有名なところですよ。

特技はコンバインの運転という農ドル、田中さんがいらっしゃいます。こちらは幸手出身ということで、この間、新聞に出ておりました。こういう農ドルという、アイドルでもいろんな方がいるような形になっています。幸手といえば桜なんですけど、毎年、桜親善大使というものを選んで数少ないイベントに出ていただいております。

ちょっと観光のことに触れさせていただくんですけども、菜の花と桜のコントラストが綺麗な桜まつり（図-8）。これは毎年春に開催されてまして、2週間くらいで約70万人のお客さんに来ていただいております。



図-8 幸手市権現堂堤の桜（撮影：岡本健）

あじさいまつり。これは初夏ですね。ついこの間までやっておりました。秋には、曼珠沙華まつりという形で、権現堂さくらまつり、桜だけではなくて、あじさいも曼珠沙華もありますよ。

みゆきさんでお馴染みのみゆき湖には、埼玉県がスカイタワー120 というので、120 FT吹き上がる噴水があります。次は、幸せの手モニュメントとして、市役所前に、ものすごく長い手が3つあります。また、ハッピーハンド事業ということで、青年会議

所の方で、その年幸せだったと思われる人を市民祭りで投票しています。青年会議所の方が一生懸命その投票で選ばれた方にアポを取って手形をとらせていただいてプレートにしています。こういう事業をやっております。東さくら通りにも、こういうプレートを置いております。幸手に来られた際には——もう見た方もいらっしゃるかも知れませんが——よかったら見て行ってください。

2008年度に選ばれた方は、ソフトボール選手の上野さんでした。こういう形で実際に手形をとりにいっております。選ばれたけど色々な都合で、手形をいただけなかった人っていう場合もあるんですが、そこはめげずに、次の年、また選ばれた人にもアタックしていくという形で青年会議所さんの方でやられております。

「初山」まつりというのが、6月30と7月1日にあります。これは、その年に産まれた赤ちゃんのおでこに、富士山の印鑑をポッコンと押すんですね。見ていただいたらわかるように、富士山を信仰している神社なので、その年、健やかに育つようにという形でやっております。

夏祭り、実は今日と明日がメインになっております。幸手夏祭り。こういう山車が七つ、町内を練り歩いて、最後、夕方暗くなると幸手駅の前に三州総本舗さんの、あそこの交差点から一気に思いっきりグワッと引っ張って駅前まで突進していくというものが見られます。これ多分明日かと思えます。

冬には青年部さんが、クリスマスイルミネーションという形で、しあわせCAFÉ AMIの隣の空き地に、手作りのクリスマスツリーを置いてイベントをやるというのが、最近恒例になっております。

あと、ドッグパーク幸手。県内最大級の敷地面積と言っても、そんなメチャメチャ広くないですよ(笑)。1,500㎡なんですけれども、商工会の方でやらせてもらってます。

推奨品ですけれども、これは全然関係ない話ばかりですいません。石井酒造さんのお酒、純米酒も、それから、西洋菓子榎の木さんの桜パウンド、マドレーヌ。意外と桜にちなんだ特産品が多くて、あとは和菓子関係ですね。塩がまや、塩あんびん。あとは合鴨をやっているところもありますね。さくらアイスもあります。そういう形で、ちょっとずつですけども紹介させていただきます。商工会の方では、桜グッズとして線香とかを販売しております。

ここから、「らき☆すた」でまちおこしということでお話したいと思えます。

こちら、泉こなたさん、幸手に在住しているという設定ですので、こなたさんに活躍してもらって歳末大売出しを開催しました。こなたCHANCE!ということで、こういった抽選補助券に、「らき☆すた」のキャラクターを、イメージキャラクターとして角川書店さんに許可をいただいて、出しております。

この、こなたCHANCE!で美水かがみ先生直筆のサイン色紙とか、鷺宮のランチの時に声優さんをお願いして書いていただいたサイン色紙など、その他諸々細かいものも含めて、「らき☆すた」のレアグッズが当たる抽選会をおこないました。

抽選葉書、応募していただいた方のサンプルですけれども、こういう形でアニメ3話で出てくる、こなたの抽選の方法で応募していただくと当選率があがりますというルールを作りました。結構皆さんイラストが上手いんですね。こちらは不当選、外れた方に抽選券をラミネートしたものをお渡ししました。抽選券だけでもほしいというファンの方も多かったですね。

これは、ストラップですね。2008年3月に販売いたしました。こなたの顔を台紙にしまして、鷺宮さんは絵馬形ですけれども、幸手は桜、花びら形で全9種類作って3月2日に販売いたしました。ストラップの販売方法も鷺宮さんと同じで、広く会員さんのところで利益を分け合っていたらいいなということで、1事業所2種類の販売とさせていただいております。そのストラップ販売の際に、商店主さんには、ファンの方にオタクという言葉を使わないでくださいと説明しました。ファン=オタクではないためです。気分を害する方もいますので、御注意くださいと伝えました。ストラップ取扱店さんの方には、事前にらき☆すたのアニメDVDや原作本を読むなどして、ファンとの交流をもってください、というような説明文書を配りました。こちらの先行販売の時に——この会場にいる方も映っている方いるかと思いますが——ファンによるボランティアスタッフの方と一緒に商工会で販売をしました。その時に、物販でチョココロネや、メロンパン、落とすなミートボールを販売しました。皆さん快く買っていただきました。

しあわせ CAFE Ami というところを商工会で運営しているのですけれども、このカフェの中でサイン色紙を飾っています、あとストラップの特大オブジェ(図-9)というのを置いています。少しでも幸手に寄ってほしいなということでやっております。



図-9 しあわせ CAFE Ami のストラップ特大オブジェ (撮影：向原緑)

街路灯の歩行ランププレートがあります（図-10）。市内にこういう桜形の街路灯が530本ほどありますが、そのうち250本に、こういう歩行ランプのカバーを——アクリル製なんですけれども——16種類作って設置をいたしました。こちら当初はカメラでバシバシ撮るファンの方がいて、お店の人も「何かとんでもない物を商工会が付けたんだな」ということで、どう対応して良いかよくわからなかったということもあったそうです。でも実際こういう形で夜は暗くなると球切れしてなければライトがちゃんとついて、皆様の足元と明日を照らしますから、是非ともお越しください（笑）。



図-10 幸手市内街路灯歩行ランププレート（撮影：向原緑）

こちらは、先ほど紹介した石井酒造が製造している日本酒「豊明」の「らき☆すた」ラベルです。こちらもお酒なので、ラベルには高校生を載せないで成人キャラクターを中心としたイラストにしてくださいということで、切り貼りのイラストになっちゃったんですけども…こちら春に販売して、すぐ売れ切れました。

商品券ですね。こちらフルコンセットという形で、もう忘れちゃった人もいるかも知れませんが、実はまだ売っているんです。でも商品券買って使わないと意味がないというのがあって、ファンの方はコンプリートして飾られることが多いので、これは失敗だったかも知れません（笑）。

「ミッションこんぷり〜と」。こちらは街路灯にQRコードを付けてウォークラリーをしていただくイベントです。携帯でQRを読み取って、与えられた問題に解答していただくというものです。全問正解者上位50名と抽選100名の方に非売品のストラップをプレゼントするというイベントでした。

そして、美水かがみギャラリー（図-11）です。「鷺宮には鷺宮神社や大西茶屋があって、ファンが集まることができる場所があるけど、幸手にはないですね」って、よく言

われました。何か出来ないかなと思って考えたのが、先ほどのAMIと街路灯です。ちょっと寄ってもらった時に見てもらおう場所ということで、ささやかながら努力した部分です。でも他に何かないかなといろいろ考えても、なかなかなかったんですね。

そんな時に、原作者の美水先生のお母様から、わざわざ幸手に来てくれた方が休める場所として、家を使えないかなという提案がありました。

待っていましたと言わんばかりに、平成20年8月に下見をしまして12月に、角川書店さんに許可をいただいて準備を始めました。ちょっと用意をしていたら、埼玉新聞さんの取材で元旦版のトップに「らき☆すたの家再現」という形で記事が載ってしまいました。これは急ピッチで準備しなきゃいけないということで、まず住民説明会を開催しました。

それで、住民の方はどのようになるのか想定出来ないのが不安だということと、治安が悪くなったらどうするんだということ、こんなの困るからやめて欲しいというのがありました。ファンの方は殆ど礼儀正しい方です、というふうに説明させていただいたところ、近所に住んでいらっしゃる方も、ファンの方は良い方ですよということをおっしゃってくださいました。治安が悪くなったら商工会はどう責任を取るのか、責任取れません、ということだったんですが、説明会の会場にいる方に、殆ど賛同していただきました。幸手のまちおこしに犠牲を払おうということで、何とか了承していただいたというような形になります。



図-11 美水かがみギャラリー外観（撮影：向原緑）

そして、この会場の後ろの方に3人いらっしゃいますけれども、ボランティア部の方達の協力もありまして、3月28日にオープン出来ました。彼らは趣味同様に、初めから幸手のお手伝いしていただいて、本当に助かっております。

ギャラリーは一軒家で、住宅地のど真ん中にあるんですが、駅から非常に遠いものから、夏、この時期行くと大分汗が——背中からお尻まで——たれるくらい暑くなってしまいます…

それから、こういうギャラリーのホームページというのもボランティアの方に作っていただいて、入場券についても町の商店で販売させてもらっています。

こちらが、入場記念券です。美水かがみ先生に書き下ろしで描いていただきました。こちら、部屋の中身ですが、「こなたの部屋」という形で、再現度が高いという評価をいただいております。努力した甲斐があって良かったなと思っておりますが、一方で「まだまだ足りないぜ、幸手商工会。どないなってんねん。」という話もいっぱい聞くんで、御要望にお答え出来る限りは何とかしたいなと思っております。これは「ゆたかの部屋」です。この部屋に1日いたファンの方もいらっしゃったそうです。6時間券買ってずつといるっていう方がいました。それを見たギャラリーのスタッフも、「あの方6時間いるらしいんですけど大丈夫ですか。」と心配していました（笑）。「多分、大丈夫じゃないかな。」と言っておいたんですけど、本当にありがたい話です。

これは、こなたのお父さんの「そうじろうの部屋」です。この部屋にはこなたのお母さんであるこなたの仏壇がありまして、こちらで皆さんチンチンチンチン鳴らして拝んでいただいています。3階は、コミュニティスペースという形になってまして、オープン当時は、ここ何もない状態だったんですけど、ボードを用意させていただいたところ、ちょっとずつ皆さんが描いたイラストとか、聖地巡礼した写真とかを貼っていってくださって、時間が経つと共に増えていきまして、今はこんな感じで賑やかになっています。

その他にも、ギャラリーの中で、星型メッセージカードというものをお金をかけずに用意しまして、こういうふうに皆さんの願い事とか、イラストを吊るしていただいています。角川書店のコンプティーク編集部の方が来られた時には、コンプティークとコンプエースをよろしく願います、というメッセージを書き残していただきました。ありがたいですね。

1階は、美水先生の原作の展示部分で、原画とか、グッズ関係、ファンの方から提供していただいたものなどを展示させていただいております。いつになったらここの展示の中身が変わると聞かれるんです。新しいものが出ているということもわかっているのですが、ちょっと、予算の関係もありまして…。皆さんに持ってきていただいたものは、いつでも置きますので、よろしく願います。1階のギャラリーはこのような形です。ギャラリーの中でのイベントとしては、こなたの誕生日会を5月の末にやりました。これはその時の写真です。

あとは、スタンプラリーですね。ギャラリーの開館後、9月末まで、今開催中です。飲食店と小売店を対象に500円以上で、「らき☆すた」のキャラクターのスタンプを、桜の花びらのところに押してもらおう——全部貯めたくなるね！という形です——ということをやっています。幸手市内の40店舗で開催中なので、よかったら今日、10個

押しもらえるように、これから頑張ってください（笑）。

鷺宮町商工会さんをはじめ、御協力いただいたボランティア部の皆さんの支えがあって、なんとかここまで来ることができました。まだまだ道は程遠いですが、のんびりやっています。やってマイナスはなかったと思います。

最後に、ボランティア部の皆さん、ちょっと立ってもらって良いでしょうか、会場にいらっしゃる方。赤いのを着ている…ありがとうございます。この場を借りて再び御礼を申し上げます。ありがとうございました。

○岡本

ありがとうございました。

とりあえず、凄い勢いでお話をいただきまして、幸手の情報がつまった濃密な時間でした。私も不勉強で、知らないことがたくさんあったので、今回のご発表で、非常に勉強になりました。ありがとうございました。

ちょっと1点お伺いしたいんですけれども、美水かがみギャラリーについて、非常に再現度が高いということでお話いただきました。オープン初日なんかは凄い人気だったと思うのですが、初日の状況ですとか、入ってどんな反応があったのかとか、そのあたりの具体的なお話を伺えればと思うのですが、いかがでしょうか。

○山内

そうですね。ギャラリー初日は、どれくらいのお客さん来られるか、わからなかったんですよ。正確に人数は把握できていないんです。一番初めのお客さんの様子なのですが、まず玄関入ってすぐ右側に「こなたの部屋」があるんですよ。自分は部屋の横の廊下にいたのですが、「クスッ、クスッ、俺マジこれヤベェ。」って聞こえたんですよ。いきなり「うわっ、マジこれヤベェ」っていう声のあとに、「クスッ、クスッ」と、その場に泣き崩れちゃってたんですよ。

○岡本

出来が良すぎて感動して泣いてしまったんですね！

○山内

もう本当に、自分の思っている理想の現場に来ることができたという形で、そこまで泣いていただけっていう。ありがたいなというのが正直な所です。

○岡本

凄いですね。確かに、こなたの部屋は私も見せていただきましたけれども、再限度が高くて感動しました。

山内さんのお話で、幸手も盛り上がってきているということが非常によくわかりました。山内さん、ありがとうございました！

○岡本

さて、過去、現在、と来まして、次に松本さんから、未来の話をしていただこうと思います。では、どうぞよろしく願いいたします。

○松本

そうですね。坂田ほど笑いもなく、山内さんほど技術もない…本当にあまり大した発表にならないと思いますので、皆さん気楽に聞いていただければと思っております。岡本さん、どんどん突っ込みお願いします…。

○岡本

松本さん、こんなこと言いながら、大変面白い方です。

○松本

あまりハードルを上げないでください、本当に（笑）。仕込みがないんです。こんなにお二人が発表にいろいろと仕込んでくると思わなかったんで…。結構真面目に近い将来のことについて説明させていただきたいと思います。

「挑戦し続けること」ということで、一応、題名をつけました。5年後、10年後、鷺宮ってどうなっていると思いますでしょうか。一応、未来という設定なので、そういう質問から入りたいと思います。

取材を受ける時なども必ず聞かれることなんですが、大体次のような感じじゃないかと思います。「らき☆すた」終わって寂しい町じゃないの、とか、もうさすがに終わっているでしょ、とかいう答えですね。皆さんもそう思っている部分が、もしかしたらあるのかなと思っていたんですが…。私達は、「らき☆すた」のファン、アニメのファン、鷺宮のファンなど、鷺宮に来てくださる方が一人でもいれば、終わることはないと思っています。実際に、先日の7月7日の終姉妹の誕生日には平日にもかかわらず300名のお客様、ファンの方が鷺宮町に来訪されました。特に、この誕生日に合わせて何かイベントをやったわけではなく、神社の横にある大西茶屋でバースデーケーキを振舞っただけだったのですが、300人の方がいらっしゃいました。それだけの数のファンの方がいらっしゃいましたので、急遽、坂田と私の方で、第1回イベントということで、間違いない探しとかクイズ大会みたいなものを実施いたしました。大変ありがたいことです。

それでも、何もしなければ疲弊していくのは目に見えていると思います。先ほど、うちの事務局長からも話がありましたが、大型商業施設の進出の問題もあります。また、どこの商店街にもあると思いますが、後継者問題ですね。後継者がいない、ということがあります。

そのため、「らき☆すた」だけじゃなく、更なる魅力の発信が必要なのではないかなと、そういうふうを考えております。

しかし、そうは考えても、鷺宮はやはり「らき☆すた神社」に頼っている部分が結構あります。今日、萌フェスなどが開かれ、少し広がりを見せてはいますが、先ほど北海道大学観光学高等研究センター長の石森先生がおっしゃったとおり、鷺宮には目立った観光資源がありません。観光地ではないのです。テーマパーク、山、海などの大自然もないし、御当地グルメもありません。

ただ、「らき☆すた」がチャンスを与えてくれたと私達は思っています。「らき☆すた」

ファンを受け入れる町としてここまでやってきました。

それから、萌フェスのとおり、痛車の方やアニメファンの方が、自分たちを受け入れる町と認識してくださっている。そういうふうな枠組みになってきているところです。

この萌フェスですけども、「萌え」や「痛い」をテーマに開催いたしました。この特徴ですけども、声優や一つのマンガ、アニメにこだわっていないということ。本当に、町民とファンが、手作りでやったイベントであるというところが、すごく意義があるんじゃないでしょうか。今日、司会をやった方——今会場にまだいらっしゃっていますけど——県庁の島田さんなど、本当に素人でもプロ並に上手かったんですが、すべて素人で作ったものです。痛車というものも、皆で持ち寄ったものです。そういう形で、お客さんと呼んだということが、本当に意義があったのではないのでしょうか。

これは立派な観光資源になりえると。5年後、10年後という将来も、これで、なんとか見えてきたんじゃないかなという風に思っております。

○岡本

この萌フェスというのを考えたきっかけは、どういうものだったのでしょうか。

○松本

そうですね。まず、「観光創造フォーラム」の企画があったんですよね。そこに、なにかイベントも一緒にやったら面白いよね、ということで考えたところ、最近、痛車の方が本当にいっぱい来ているので、じゃあ痛車を集めてコンテストみたいなものやってみようかということで、こういう形になっちゃいました。

○岡本

実は、私と山村が、松本さん、坂田さんに、鷺宮でフォーラムをやらせていただきたいという相談に伺ったんです。そうしたら、松本さんから、「実は痛車フェスティバルみたいなこともやりたくて」みたいな話で、そうこうしているうちに、坂田さんや山内さんも部屋に入ってきてくださって、「こんなの面白いんじゃない」「萌え度セレクションとか」みたいなことを言っていて。僕らも、なんか楽しくなって、調子に乗ってきてしまって、山村と自分で、「こんなのも面白いんじゃないですか」とかって適当に話をしていたら、次の日に早速「企画が出来ました」みたいな話になっていて…。そしてファンのみなさんが作られているボランティア部の方々が、そういった企画をすぐに実施してくださる力を持っている。このスピード感あふれる展開というのは、鷺宮町の凄い特徴だなという風に感じています。

○山村

その日の打ち合わせでは結局、「観光創造フォーラム」の打ち合わせ、ひと言もしませんでしたね（笑）。

○岡本

多少はしたような…（笑）。ただ途中、アニメの話で盛り上がったりとか、楽しいイベント企画の話をして帰っていくっていう感じでしたよね。鷺宮・幸手のイベン

トの会議をのぞかせていただくと、いつもこういう感じというか、とてもざっくばらんで、面白いですね。冗談混じりの会話の中からアイデアがどんどん出てくるというか。すみません。話がそれてしまって。松本さん、続けてお願いします。

○松本

やはり、ボランティアの皆さんがいるから、こういうイベントを開催出来るんだなということも感じています。アイデアを出して、それが実行できる環境にあるわけです。ボランティアの方々には本当に感謝しております。

更に、「らき☆すた」が気付かせてくれました。アニメファンの皆さんのマナーの良さ、礼儀正しさ、謙虚さ。アニメファンを偏った目で見ない地元の人々の理解と優しさ、寛大さ、もてなしの心を気付かせてくれたのではないのでしょうか。

鷺宮という舞台を中心に、様々な人が集まるようになってきました。まず、アニメファンですね。「らき☆すた」ファンでありながら、イベントなどに協力してくれるファンボランティア。先ほどからも出ていますが、当初から御協力いただいております。また、本日も大勢の方に御協力いただきました。本当は誰よりもイベントに参加したいはずなのですが、駐車場での整理とか、影ながらに支えてくださっております。鷺宮のため、まちおこしのため、ということで、もちろん幸手市のためということで、本当にありがたい皆さんです。ボランティアの方、今日は痛車の方々、多数の方に協力いただきました。

更に、地元住民、地元商店は、ファンを見た目で判断しないという、理解ある住民であること。外部の人を受け入れる寛大さ。世話好き、話好き。なんといっても楽しいことが大好きな地元住民です。本当にノリが良いです。地元の伝統の祭も、盛り上がる楽しいことであれば、簡単に伝統も覆すことが出来てしまうという、そのノリの良さですね。昨年、そういったことで「らき☆すた神輿」というのが実現いたしました。

また局長からも話がありましたように、行政機関の協力なくして、まちおこしは成り立たないと思います。鷺宮町には柔軟な対応で住民票を発行していただきました。この思い切った「萌フェス」という企画にも、町の資産を使わせてくれるという、凄い理解だと思います。

また、埼玉県も、「ちょ～でいーぷな観光協会」ということで、「らき☆すた」鷺宮町、幸手市を、すごく後押ししてくれております。

今日、更には、県庁職員の島田さんが総合司会をやってくれるという、そのフットワークの良さというのも魅力じゃないかなと思っていますところでは。

大学研究機関でありながら、本当に熱狂的なアニメファンで、近畿日本ツーリストの企画である「らき☆すたツアー」に参加して、NHKからインタビューまで受けてしまうと（笑）。

○岡本

あ、これ、僕らのことですね。誰のことかなと思いました（笑）。

○松本

次、写真が出てくるんですけどね。

○岡本

うわあ、僕らの顔写真じゃないですか（笑）。写真掲載は本人たちの承諾を得ておりませんので（笑）。

○松本

これが山村先生と岡本さんです。お二人は、本当に研究の領域を超えて、今、まちおこしに参画していただいているところでございます。

鷺宮には、立派な観光資源があると私は思います。それは、鷺宮に集う人じゃないかなと思っております。先ほどから出ている、人が観光資源。皆さんが観光資源だと思っております。それこそが鷺宮の魅力であり観光資源だと思っております。

このように人が集まる中で、凄い人が来てしまいました。今日も、実は会場に来ていただいていますけれども、ドラマの演出で活躍されております、北川敬一さんです。この方の代表作ですが、「正しい王子の作り方」や「野ブタ。をプロデュース」、「ココリコミラクル、スペシャル」などの企画などの演出を、数多く手がけられている方です。その方が鷺宮に来て、このような提案をしてくださいました。「地域発のドラマを作ろうではないか。どこにもないような、地域が盛り上がるような、何もないところから自ら映像を作り出してみようではないか。」ということです。鷺宮の特性である人の魅力——プロのドラマの演出家の知識、ノウハウ、ファンの皆さん、ボランティアの協力を得て、また様々な人のネットワーク、北海道大学さん、埼玉県さんなど——を活かしてドラマを作ろうと。更には、ドラマをも作ってしまう町民のノリの良さという点もアピールできないだろうか、という話になりました。ですが、問題もやっぱり多々あります。

まず、お金がありません。1時間ドラマを制作する場合、最低でも1,000万円くらいはかかってしまうと。うちの商工会の総予算は6,000万円。人件費等含めても、そんなもんだということで、なかなか厳しいと。更には、ドラマの内容です。アニメファンがドラマを見るのか、アニメファンが喜ぶドラマは何なのか。実写ドラマには萌えない、興味がないという人が多いんじゃないでしょうか。逆に言ったら、ドラマを作ったら鷺宮に来るファンが幻滅し、減るリスクがすごくあるんじゃないか、という問題がありました。

○岡本

会議の中でも、次元が違うんじゃないかという意見が出ましたよね。二次元のファンは三次元に興味を示さないのではないだろうかという…

○松本

二次元から三次元。次元は超えられないんじゃないか！っていう。常に言われておりました（笑）。

ただ、誰も行かない次元だからこそ、ここにチャンスがあると思っています。当初、

「らき☆すた」の取り組みもそうだったと思います。萌えアニメでまちおこして、なかなか無かったのではないのでしょうか。それでもチャレンジして、今に至るわけです。

問題のドラマの内容なんですけれども、内容をどうしようかということで、もうこれは見たい人に書かせるべきじゃないかと。ファンが見たいものはファンが知っている、プロが良いと思うものは全て良いとは限らない、ということで、思い切って「序章」は岡本さんに担当してもらいました。岡本さん、この時の苦労話というか、内容を書いた時に、こんなことがとか、そういうの、ありますか。

○岡本

立場が逆転してしまいましたね。僕は話をふる立場で安心だなと思っていたんですが…。どんな感じでしたでしょうか。確かメールで送っていただいたんですね、松本さんから。こういう話が来たんだよということで。それに、脚本らしきものがついていて、ちょっとこう読んだ時に、「普通のドラマだな」と思いました。先ほどもありましたけど、ファンの人も喜ばせたい、というお話だったので、普通のドラマだと面白くないなあ、と思いました。それでファンの皆さんは何を求めているだろうかと考えました。私も、ファンというふうで紹介していただいていますけど、そこまで詳しくないんです。多分この会場にいらっしゃる皆さんの知識量には、確実に負けます。ですので、その時、皆さんに見て喜んでいただけるものって、じゃあ何なんだろうっていうのを結構悩みまして、レンタルビデオ店に行って、色々なアニメをいっぱい借りてきて観てみたんです。

見ているうちに、アニメ特有のテンポとか、はちゃめちゃな展開や設定なんかを実写と違うところだなあと思いました。こういうアニメの面白さの要素が入ったドラマっていうのが出来たら面白いなと思ったんです。書き始めたら面白くて、鷲宮のドラマの脚本をずっと書いてました。

○松本

岡本さんが、がんばってくださった脚本なんですけど、実はパロディ満載だったんですね。アニメのパロディ満載で上がって来ました。

○岡本

色んなアニメを見て書きましたからね…。

○松本

そうですね。もうこれ、著作権問題山積み、ということで。内容がパロディ満載で著作権の確認が必要だという問題が出てきました。

更に、他にもまだまだ問題がありまして、上映時間をどうしようかということがありました。予算は50万円ですからね。上映方法、俳優、などを考えて行くと、50万円ではもう常識的には考えられないということで、そういう問題もありました。

また、鷲宮町のためになるのか、ファンのためになるのかということも、結構問題がありました。

いろいろ問題が山積みで、どうしようかという状態だったのですが、やるしかないと

ということで、パロディ満載部分も、著作権元に確認しました。黙認されたところもありますし、駄目と言われたところもありました。

上映時間、上映方法も埼玉県さんの協力を得てSKIPシティという県の動画サイトで放映いたしました。予算が50万ということで、北川さんは、やっぱり10分くらいが限界だろう、ということをおっしゃいました。もう、本当に俳優を呼ぶお金がないので、職員とかファンの皆さんで出演して、パロディ満載のものをやりました。内容も、今年だけじゃなくて来年補助金をゲットするためのPR映像にしておこうと。

ファンのためになるのか、鷺宮のためになるのかということで、内容はファン参加型です。皆さんに直接参加してもらうためにということで、ドラマの内容を募集させていただくことにしました。

鷺宮独自のコンセプトを持ち、このドラマが鷺宮独自のものだ。「らき☆すた」もありつつ、こちらもちつつという、将来的な見方です。ノリでやりました(笑)。「鷺宮☆物語～序章～」という動画を作っていました。これは後ほどご覧いただきたいなと思います。パロディ満載の動画です。そうしたら結果、大反響で、約1ヶ月で再生数が12,000件に達しました。このSKIPシティのサイトの最高記録を叩き出しました。中小企業庁の補助金、地域資源∞全国展開プロジェクトにもおかげさまで採択されました。

ファン参加型ということで、本格的な今年度のドラマに向け募集した、皆さんからの企画案は66通集まりました。高校生から70歳の方まで、幅広くいただきました。大変ありがとうございます。

現在、概要ですけども、こんな形で進んでおります。費用は、総制作費500万以上かかります。監督、北川敬一さんでお願いしています。出演は地元住民、地元の商店、プロの俳優を予定しています。俳優さんが誰かというのはサプライズですので、お待ちくださいませ！内容は一般応募で採用されたものからアイデアを使わせていただいています。ロケ地は、オール鷺宮町。上映は来年の1月、2月くらいを予定しております。更に、展開として、オリジナルグッズ等も考えております。特徴として、他の地域のような地域ドラマにしない、というところをすごく念頭において、鷺宮らしさというのを出したいと思っております。本気でくだらないドラマを作ります。皆さんのご協力が本当に不可欠であります。更に、皆さんが主役だと思っておりますので、何卒、ドラマへのご協力の程、よろしくお願ひしたいと思います。

随分硬くなっちゃったというか、すみません。こんな感じですね。未来だったのかわからないですけど。以上です。御清聴ありがとうございました。

○岡本

最後の、くだらなさとか面白さっていうところ。松本さん、坂田さん、山内さん、皆さんに共通する部分のような気がするんですね。本当に面白いことは細かいことを気にせずノリでやっちゃえという、そこがすごく、皆さんの魅力的な活動に繋がっている

のではないかと感じました。

ちょっと最後で気になったところがあります。松本さんが最後のところで、「他の地域とは違うドラマを作りたいんだ」とおっしゃったんですが、他の地域のドラマは、どういうイメージでしょうか。

○松本

そうですね。大自然の中で、すごく綺麗な青春ストーリー、みたいなイメージがありますね。こういう良いところがあるんだよっていうのを映し出しているものが多いような気がするんです。確かに他の場所だとそういうことで良いのかもかもしれませんが、鷺宮自体は、景色が良いとか大自然があるというわけじゃないので、人の面白さだったり、ノリの良さだったり前面に出たらおもしろいんじゃないかな、ということですね。

○岡本

やっぱり、そのノリの良さ、くだらなさ、面白さっていうところが重要なのでしょうか。

○松本

そうですね。

○岡本

本当に、このあたりに関しては、皆様のお知恵をいろいろとお借りしたいところですよ。

○松本

そうですね。もちろん企画案も皆さんから募集しましたし、出演も皆さんに出演してもらいたいと思っていますし。本当に、参加型ということ意識しています。そこが鷺宮らしさでもあると思っていますので。すごく真面目に言っていますが、内容、多分凄くくだらない感じになると思います（笑）。

○岡本

完成して、見るのがとても楽しみです。ありがとうございました。

<ここでビデオ上映>

○松本

めちゃくちゃ恥ずかしかったですね。以上です。

○岡本

今回の映像は松本さんが主演みたいなものですからね（笑）。映像のほうのパロディばかりなのに、募集する企画についてはパロディ禁止という、無茶苦茶なおねがいですけれども（笑）。非常に面白かったです。自分が書いた脚本ですけど、映像になると、また全然違って、自分でも何回も見て爆笑しています。これは北川監督の演出のなせる技なんだなと感動しています。

○松本

こんなノリで今年も出来ればいいなと思います。でも、パロディ無しで（笑）。

○岡本

是非今後も頑張ってくださいたいです。楽しみにしております。松本さん、ありがとうございました！

ちょっと長くなりましたけれど、私の変なツッコミがいっぱい入ったせいで長くなってしまったのだと思います。本当に、手馴れていないものですから、皆さんには御迷惑をおかけ致しました。

過去、現在、未来というふうに分けさせていただいて、皆さんの取り組みを御紹介いただきましたけれども、皆さん共通してアイデアがすごく独創的で、楽しいことやろうという部分や、ノリでやっちゃおうよというところがあったかと思います。後は、感謝の気持ちとか、相手の立場を考えるとという部分、これが非常に重要だと感じました。

観光資源があるか無いかという話がよく出てきますけれども、こういう楽しい方々がいらっしやる町、面白いことができる町って非常に魅力的だなと、これ全体が観光資源かなと、そういうふうに感じました。

ということで、このセッションは一度閉めさせていただこうと思います。どうも皆様ご清聴ありがとうございました。

○山村

長時間ありがとうございました。大変わかりやすく、これまでの経緯とこれからがわかりました。ありがとうございます。

私自身も、最初は調査研究ということで鷺宮町に入らせていただいたんですが、いつの間にかまちおこしをお手伝いしているという現状です。知らず知らずの間に、やりたくなってしまふ。というか、お手伝いしたくなるという、そこが鷺宮・幸手の非常に大きな魅力かなと思います。

これからも、微力ながら皆さんと一緒に盛り上げて行ければなというふうに思っております。どうもありがとうございました。

※本編をまとめるにあたり、桜宮観光案内所所長の向原緑氏には貴重な写真をご提供頂きました。記して感謝の意を表します。